

Contents

インテリア特集

- 住まい文化の栞
- 住まいは巢まい
- 住まいのオーダーメイド館403
- 住健住康
- 庭の話



出居民家

Weekly インテリア特集

HABITA 065

家の工事も始まり、いよいよ実際の生活をスタートするための準備が始まります。新しい家では、好きなものに囲まれて暮らしたい、オシャレな暮らしがしたい、憧れていた家具を揃えたい、どんな雰囲気のリビングにしよう…など、さまざまな夢が膨らみます。今回はインテリア特集と題して、木材「現し」の家に合う家具やコーディネート術などをご紹介します。

あなたの住まいで、快適な暮らしを彩るヒントになりますように。

暮らしを豊かにするインテリア

見本

永く住み継いでゆく家を目指す。構造体は丈夫で強く、耐久性に富むことが求められます。内部の部品、部材、設備は、趣味・趣向に対応でき、自分のライフスタイルに合うものを選ぶことが正解でしょう。自由で、わがままが許される住まいづくりの姿がそこにはあります。いわゆる、スケルトンとインフィルを区別する考え方です。インフィルについては、選択の目を世界に広げたいものです。情報時代の今、世界のどんな国のものでもたやすく手に入れることができるからです。北欧、南欧、北米、南米、東南アジアなどその国ならではの気候、風土に生まれ、技術で磨かれ、暮らしの中に根付いている伝統のインテリアや家具、

設備、生活用品があります。これらのものは、住まい手を快適な暮らしへと導く、ライフスタイルの演出家とも言えます。

世紀を超えて積み重ねた歴史の中で、守り続けられた伝統のワザものは、やがて世界が認め、人々を魅了し、国境を越えました。デザイン、品質、性能、機能は、この上なく豊かな暮らしへの道標となります。世界の一流品が一流品と認められるようになった背景には、なるほどと納得させる理由が必ずあります。

たとえば、日本で根強い人気の北欧スタイルは、人々の日常的な暮らしとかけ離れた芸術品としてではなく、誰もが使う日用品として高い評価を受けています。生活必需品だからこそ美しく、シンプルで、機能性に優れたものを作りだしています。生活シーンに溶け込む、控えめながら個性溢れる豊かなデザインと力強いフォルムが特徴です。北欧のファブリックについても、マリメッコ



に代表されるように、鮮やかな原色と大胆な構図が特徴です。厳しい寒さをはねのけ、短い夏の太陽を待ちこがれる北欧の人々ならではの受けとめることができます。赤は赤でも北欧の赤はどこの国の赤とも違う色の赤です。

最近の傾向としては、自然志向、環境共生が世界の大きなうねりとなるなかで、木や植物などの自然素材を活用したアジアの製品が注目を集めるようになっていきます。

インテリアを構成する要素として、大きく影響を与えるのが、床、壁、天井です。室内に入ったとき、まず目に飛び込んでくる大きな面積です。マンションなど、真っ白なビニルクロスに囲まれている空間と、古民家のように存在感のある梁、柱が見えて、自然素材を感じる空間とでは、インテリアの雰囲気が随分かわります。当然のことながら、真っ白な空間ではどんな家具でも良かったものが、木材が「現し」の空間では、なかなかコーディネートが難しく感じられることもあるでしょう。木と上手に付き合うインテリアとはどのようなものなのでしょうか。また、愛されるデザイン家具の秘密はどこにあるのでしょうか。暮らしを豊かにする、インテリアをご紹介します。





ダイニングチェアは、「スーパーレジェーラ」という、名作椅子。イタリアの建築家、ジオ・ポンティが生み出しました。

レジェーラは、イタリア語で「軽い」という意味です。その名のとおりに、超軽量で、椅子の機能と美を極限まで追求した作品として、発売以来、半世紀近くにもわたって人気の衰えないロングセラーとなっています。

世界一軽量なこの椅子の重量はわずか1.7kgで、指一本で持ち上げられるほどです。素材は、野球のバットにも使われている、耐久性と弾力性のあるトネリコを用いることでシャープな形の実現が可能になりました。

一見シンプルに感じるこのデザイン。実は、フレーム、脚、背もたれ、どの部分をとっても「こうでなくてはいけなかった」という確固たる理由に支えられています。たとえば、細い脚の断面をよく見ると、底辺が18mmの三角形になっています。これは「角材よりも細くて軽くて、丈夫な形」を研究してたどり着いたカタチです。

理想のカタチと機能をとことん模索するデザイナーの美意識と職人技が融合



し、控えめながらきちんと存在感のあるフォルムが誕生したのです。

良い家具というのは、デザインと技術と知恵とが一体になったところに生まれるもので、デザインだけでは本当にレベルの高いものにはなりません。ちなみに「スーパーレジェーラ」の丈夫さをテストするために、アパートの4階から下の通りに投げたという話は有名です。椅子は壊れることなくポンツと弾んだのだとか。

美しくも革新的な椅子。1gあたりの価格は、なんとジェット機をしのぐ世界一の高額とも言われています。

リビングのソファには、「マラルンガソファ」。イタリアのプロダクトデザイナー、ヴィコマジストレッティによる代表作です。最大の特徴は、フレキシブルバーを組み込むことによって実現した無段可動式の背もたれです。

他の製品にありがちな3段階式のものとは違い、「カチカチ」といった音がせず、なめらかな動きが特徴です。背もたれ部分の移動で色々な表情を楽しむことができ、また様々なスタイルでくつろぐことができます。

シート部分の「日本の座布団」を模したクッション性の高い構造は、他に類を見ないやわらかさと座りごちを実現しています。マラルンガは、最高のすわり心地と評価が高く、1975年発表以来ソファの最高のステータスとして現在でも愛用者が多くいます。

その優れた品質とデザインが認められ、ニューヨーク近代美術館に永久保存されているほどです。

見本

壁面のアートと調和する椅子、「スカラベチエア」は日本のデザイナー、下山 肇氏により生み出されました。ありきたりの一枚の板から、一切のムダなく椅子を作れないものか、と試行錯誤し辿りついた解決技術はレーザーカットにありました。抜き取り行為は、切りながらコゲという着色を生み出します。抜き型は美しさを与えられたことによりゴミではなくなりました。使われるものと、使われないものの関係を再認識する装置としても機能する不思議な魅力のあるシリーズです。

合板レーザーカットは、コンピュータ入力による加工のため、形、大きさなどの様々なバリエーションができ、

同形体の反復生産も可能。「スカラベ」とは古代エジプトで、再生復活の力をもつ太陽神の化身とみなされていた昆虫です。

レーザーカットのパーツ配置パターンと、その再生性を象徴的に表現したところからこの名前がつけられたと言われています。抜き型を椅子と一緒に置いておくだけで、一瞬にして芸術性のある空間に早変わりします。

デンマーク生まれのプロダクトデザイナー、アルネ・ヤコブセンの代表作、「エッグチェア」。腰掛けると身体全体をすっぽりと包み込む、卵を思わせるその形状からエッグチェアと名付けられました。機能主義をポリシーとし、余計な装飾をせず、非常に洗練されたデザインは、半世紀を過ぎた今でも人気と話題性のある名作です。

ひとつのテーブルを囲むと、自分たちだけの隔離された空間を作るかのような不思議な感覚に陥ります。ハイ

ウィングバックながら、リクライニングもする安楽性と優雅でなめらかなラインで構成されています。



「カーネレ」は座りやすく、飽きのこない、上質な座り心地のデザインでありながら、定番の椅子として確立することを理想としたスタンダードデザインにチャレンジしています。

ゆったりとしたサイズとあいまって、食事の後もそのままくつろぎや団欒の時間を過ごせるカーネレを製作したのは野田産業株式会社。

手なじみよく、やわらかで繊細なフォルムと安定した座り心地を両立させたこの椅子は日本人のライフスタイルに寄り添います。カーブを持たせた笠木は背中に気持ちよくフィットします。素材は、時が経つほど赤みを増し、味わい深く変化する無垢のチェリー材。



野田産業株式会社
岐阜県加茂郡富加町大平賀打越429番地
tel.0574-54-2222
http://www.ndstyle.jp/



チェアハンモック

ハンモックは、そもそも原始の人々が獣の襲来から身を守るために、木の上に植物の皮などで編んだ寝床を造ったのが始まりと言われていいます。鳥が天敵から身を守るために、木の上に巣を造るのを見て、人間は学んだのかもしれませんが。その時に味わった快感は、DNAに刻み込まれています。

ベッド代わりに使い出したのは、後世のメキシコ、マヤ族だと言います。それを見たコロンブスが帆船の寝袋に使ってみると、船の揺れに同調するので、船酔いせずしかも快眠できたことから、世界中の人々に広まっていったと言われていいます。



ハンモックスリング

ハンモックの揺れは、母親の胎内にいる感じに似ているそうです。赤ちゃんをあやすために、抱いて心地よいリズムで揺らす行為も、安心感をもたらす「揺れ」に通じているのでしょう。ハンモックの不思議な揺れ具合は、大人になっても真の心地よさという感覚を記憶の奥深くから呼び覚まします。

スイスとフランスの科学者チームが研究した結果、ハンモックは通常の

ベッドやロッキングベッドなどよりも、快眠をもたらすことがわかりました。ハンモックの揺れによって、入眠が早くなり、睡眠の質も高まるのです。今後、不眠治療への応用も進めてゆくそうです。

ハンモックには、無意識のうちに日頃受けている重力から部分的に解放され、浮遊感を味わえる不思議な魅力があります。自然の中で、木に吊るした状態でハンモックを使用するのが一番よいのですが、住まいに取り入れることでその活用法は広がります。

梁にかければ、たちまちベッドに、椅子に、時には子どものブランコに。

また、食べ物や荷物を吊るしておくものとしても、通気性に優れているので重宝します。編み目や色合いも美しいので、飾る収納にも、オブジェにしてもインテリアに映えます。

色とりどりの表情のハンモックを造り出すのは、里山ハンモックのみちやま氏。より自然を感じてもらいたい、との想いから「サクラ、ユリ、キンモクセイ、コスモス」など花のイメージから編みあげるハンモックのシリーズもあります。もちろん、要望に沿ってオーダーメイドでも制作します。

ハンモックを家で使いたい!と思っても、マンションや現在の日本の戸建て住宅の多くは、ピニルクロスに囲まれた四角い空間になってしまっているため、なかなか希望が叶えられません。梁が構造体として室内に見えているHABITAでは、その梁を有効に活用できます。太く力強い梁にハンモックをかけ、高い天井の木の模様や、窓から見える空を眺めれば、木にかこまれたその空間は、まるで大自然に繋がっているかのような感覚を味わえるインテリアになります。

里山ハンモック

東京都調布市下石原 tel.080-5007-0412
http://michiyama.blog17.fc2.com/

キッチン、リビング、ダイニング、それぞれの場所には、それぞれ目的の家具が置かれる、これが当たり前だと誰が決めたのでしょうか。リビングにはソファのセットを

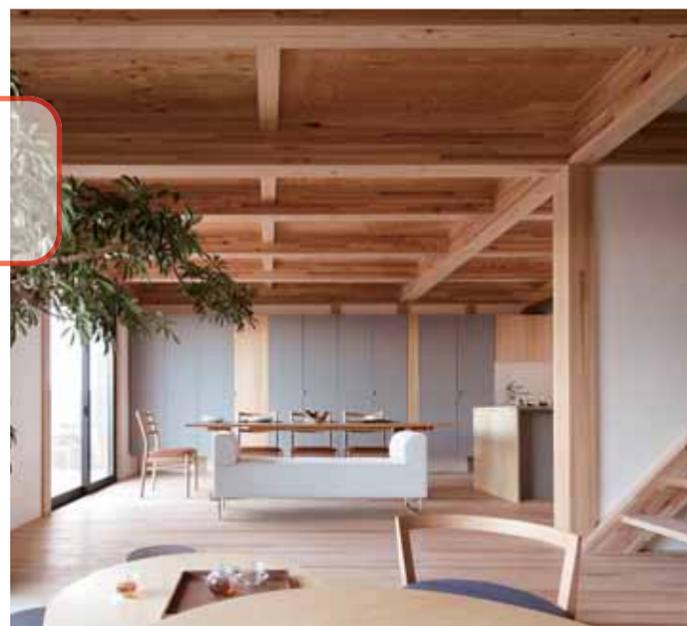
…しかし、実生活の中でソファは洗濯物の置き場所になっていたり、ソファを背もたれに床に座ってたり

します。リビングダイニングの縛りを取り除いた、カフェのような空間には日進木工の「floor-ist」シリーズがよいでしょう。床の上でのびのび暮らす、フロアライフをもっと楽しみたいという発想からデザインされた家具です。そして視線を低くするというは、子どもたちと同じ目線で暮らすということです。

「MAWARIZA回座」は、カフェスペースを活動的に使うことができるモダンなアイテムです。あぐらもかけるゆったりとしたサイズと「回座」という名のとおり、座面が回転するのが便利です。「AWASEZA合座」と組み合わせれば、足を投げ出してよりくつろぐことができます。

スツール感覚で気軽に腰かけられるアイテムは「SARUSUWARI猿座」。小さめサイズですが、大人も子どもも座れます。軽いので子どもでも簡単に移動できます。いくつか並べておくだけでかわいらしいカフェの空間ができるでしょう。

洋、和問わず使えそうなテーブルは、脚の取付けを変えることで高さを調整できます。円卓を囲んで家族の集まる和やかな空間を演出してくれる



このテーブルは、古き良き時代のちゃぶ台が蘇ったかのようなアイテムです。「KO-DAI小台」と「O-DAI大台」があり、高さの違うテーブルを並べると、また違った表情を見せてくれます。真ん中の丸い穴は、テーブル上にコードを見せないための工夫です。パソコンや充電器などの、あまり見せたくないコードをすっきりと納めてくれる心配りのあるデザインです。

ダイニングチェアをカウチタイプにすることで、両側から使えるため、ダイニングとより一体感が出ます。カフェとしての空間を演出するための、ひとつのポイントです。



日進木工株式会社

岐阜県高山市桐生町7-78 tel.0577-34-1122
http://nissin-mokkou.co.jp/

三澤 千代治の 住まい文化の栞

仕切り直し

西欧建築の多くは石づくりであり、外壁はもちろん部屋と部屋の間も重厚な壁で仕切られている。

隣の部屋の物音が聞こえず、プライバシーが守れるという点では、完璧に近い作りだが、それだけに孤立感、閉塞感、重圧感といったものも相当強い。

この閉塞感をいかに軽くするかが、西欧の近代建築の大きな課題なのだが、日本の住まいにおいてはすでに昔から開放性、流動性のある完成されたスタイルとして今日まで継承されてきている。つまり、大きな空間を簡単な間仕切りで仕切って暮らすという、寢殿造りの住まい方である。

寢殿造りはそもそも、「棟」「室」の建物としてつくられ、中の空間を障子や襖といった可動式の間仕切りによって複数の部屋に分け

て使う。つまり、空間を仕切りながら、開放するというマジックを、この引き戸形式の建具によって可能にしているといえる。

襖ではなく壁で仕切るスタイルは、プライバシーが守れる、子どもたちの独立心が養われるといった利点もある。逆に、家族のコミュニケーションの機会が少なくなるという、マイナス面もある。

間仕切りをどんなスタイルにするか。家族のあり方や暮らし方の問題として、間仕切りをもっと柔軟に自由に考えるときがきているのではないだろうか。

現在、便利な間仕切りがいろいろつくられている。取り付け、取りはずしが簡単な壁面パネル、移動式の家具やカーテンや植物を使って区切ったりはずしたりと、わが家を、自由自在にデザインしてはどうだろう。家族構成など、年齢の変化に応じて“仕切り直し”をしていく。

そして、あの大胆で自由な襖や屏風の発想や知恵を、現代に取り入れてみるのも楽しい。

住まいは 楽 住まい

子どもがよく眠れる家

生まれたばかりの赤ちゃんは、一日中寝たり、起きたりを繰り返して15時間以上は眠っている。生まれてからしばらくは、このように一日のほとんどを眠って過ごす。それは人間としてまだ完成されていないうちに生まれてくるからだそうだ。眠っている間にも、赤ちゃんの身体は育つために働いているのだ。赤ちゃんに快適な睡眠を確保することが重要だということがわかるだろう。

そして成長するにつれて睡眠時間は短くなり、5歳で10時間、10歳で9時間ぐらゐとなり、15歳を過ぎると7、8時間で足りるようになる。お年寄りになれば、もっと短くてすみ、平均5、6時間も眠れば十分という人もいる。

乳幼児期ほどよく眠ることが大切であり、子どもの成長と睡

眠は相関関係がある。これを裏付けるかのように、寝る子についてのことわざもたくさんある。「寝る子は育つ」「寝る子は賢い、親だすけ」「寝る子は寝楽」など、いずれもよく寝る子には寝ただけの得があることを謳っている。反対に、「寝た子を起こす」など、せつかく寝ている子を起こすように、いらざる手出しをして問題を起こすというような悪い例もある。

子育てのための住まいには、何よりも快適な睡眠がとれるような配慮がなされていなければならない。部屋の通気性が悪かったり、室内温度の差が激しかったりする部屋では、十分な睡眠は望めない。

眠りの習慣でいえば、日本人は窓側に頭をもつてくる例がかなり多いようだが、ヨーロッパでは壁側を枕にする例が多い。どちらかというと窓側は気温の変化が激しく、時としてはカーテンの隙間から差し込む明かりも安眠を妨害する。外の騒音なども考えると、窓側に頭をもつてくるのは不向きかもしれない。



住まいの オーダーメイド館

「力持ちの積み木」ガッツメン

【はめる】【のせる】【ひっかける】の3つの要素で遊べる積み木です。ドミノ倒し、バランスゲーム等、自由な発想でいろいろ遊べます。遊び方を限定しない為、子どもから大人まで誰でも自由に親しむこ

とができます。人の形をしているので、積上げた時に動きの表情がでてくると共に、崩れて床に倒れたときの姿は、哀愁を誘うのです。

ウォールナット等の4つの種類のキャラクターは、無垢材削り出しで、塗装も接着剤も使用していません。

それが、持った時の木の肌触り、重さ、硬さ、匂いなど体感して、

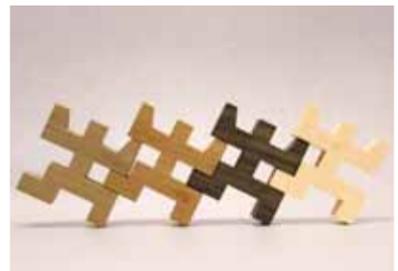
その違いを発見する楽しみがあります。

子どもたちへ、安心・安全な物をプレゼントしたいという思いから、【想像力がいろいろできる積み木】をコンセプトにつくられた無垢な「ガッツ」ある積み木です。

住まいのオーダーメイド館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
http://order403.com/

403

検索



主材質：・ウォールナット・アルダー
・ナラ・マルーバ
サイズ：幅75×高さ75×厚さ20mm/1個
商品価格：¥4,200/1箱(10ピース)
403掲載商品No.G-0015_017

住 健 住 康 じゅうけんじゅうこう

お風呂バンザイ!

空前の海外旅行ブームといわれる一方で、温泉旅行のほうも相変わらずの人気を保っているようだ。若い人も温泉でのんびりしたいというのだから、今の日本の生活はよほどストレスがたまるのか、普段の生活の疲れを落とす場所として温泉が機能しているのだろうか。

洋風の風呂は浅くて味気がない。日本人は特に、首までどっぷり浸からないと、お風呂に入った気がしないという人も多いだろう。

風呂でゆっくり浸かっていると血めぐりもよくなり、一日の疲れがとれる。

また、風呂という空間は、一日の反省の場ともなる。今日の出来事を思い出して、ここを改めよう…。などと考えているとつい長風

呂になり、出ても体がほてって暑い。すぐ床に入れないので新聞や本を見たりする。これはプラスアルファの勉強になる。これを毎日、年間365日もやっているのと、その勉強の集積は大変なものだ。

戦後、1億人が一生懸命働き、風呂で健康を取り戻し、戦争はもうやめたいと毎日反省して風呂から出てきて勉強したから、日本は発展したという学者がいる。

日本がここまで経済発展を遂げて、豊かな国になり、世界から注目を集めるようになったことに、お風呂が一役買っている。



庭の話

庭にもライフサイクル

庭はその使い方によって、およそ3つに分けられる。

まず第1に、子どもが跳んだりはねたり、走ったりできる芝生のある「運動する庭」。次に自分で木を植えて花を咲かせ、鳥が飛んでくるのを「自ら楽しむ庭」。最後に、それを眺めて楽しむ「観賞する庭」の3つである。

年代で考えると、30代のうちは、「運動する庭」がよいだろう。子どもも遊べるし、自分でゴルフの練習をしたり、体操をする場所が欲しい。周囲は生け垣で、芝だけ張る程度でもよい。

40代を迎えると、子どもも手がかからなくなるので自分の庭を楽しむという意味で、庭づくりに念を入れるもよい。自分で庭木を植えて、手入れをして

楽しむというわけだ。

やがて50代になると、10年、20年前に植えた庭木も大きく育っている。観賞する庭ができ上がるわけだ。庭付邸宅として、財産が出来ることになる。

人間は年代によって興味の対象が変わる。若者は、興味の対象は動物つまり異性だが、中年は、だんだん植物に興味に移ってくる。年寄りには石や焼き物といった鉢物。つまり、バッジや名誉が興味の対象となる。

人生、順序を間違えてはいけな、と聞いている。若いのに名誉が欲しいというのは間違い。年をとってから若い動物がかわいいというのも困る。順序よく進めなければいけないのだ。平均寿命が長くなった今、植物とつき合う時間が長くなってきている。

